

「子供を持ちたい」という夫婦の切実な願いを大切に 横浜HARTクリニックをご紹介します。

横浜HARTクリニック



ごとうつや
院長 後藤 哲也

1991年 東京大学医学部卒業
1991-1993年 産婦人科研修医(東大附属病院分院、都立築地産院、国立習志野病院)
1993年 アメリカウイスコンシン大学 高度生殖医療施設
1994-1997年 イギリスロンドン大学大学院 医学博士(生殖遺伝学)
1998-1999年 イギリスロンドン大学産婦人科
2000-2001年 オーストラリアモナッシュ大学 体外受精施設
2002-2014年 東京HARTクリニック副院長
2014年 7月 横浜HARTクリニック院長

開業と不妊治療への想い

開業する前は当クリニックと同じグループの東京HARTクリニックに12年間勤務し、不妊治療に取り組んでいました。当初から開業したいという願望があったわけではありませんが、勤務医を続けるうちに、自分の考える理念に沿った環境で不妊治療に取り組んでいきたい、地元の横浜で不妊治療を行いたいという気持ちが膨らみ、2014年に開業しました。

当クリニックの診療理念は7つあります。理念は待合室の壁に掲げており、毎月1回、全スタッフが集まるミーティングで、必ず代表1人に音読してもらい、「患者さん1人1人のために最大限の努力をすること」を常に意識してもらっています。

7つの診療理念のうちの4つ「患者さんの気持ちに寄り添った診療を行います」「患者さんの話をよく聞きます」「納得していただけるまで十分に説明します」「それぞれの患者さんに最適な治療を安全に行います」は、不妊治療を行うにあたって特に重要な項目です。不妊治療の中でも体外受精を専門として行っている当クリニックに来院される患者さんの多くは、「もう子供を持ってないかもしれない」という人生で最も重大な不安を抱えられています。また不妊治療は、この治療を行えばこうなるといったマニュアル通りに結果の出る分野ではありません。そのような患者さんに対して、持てる技術を尽くすのはもちろんですが、患者さんの気持ちに寄り添い、時間をかけてよく話を聞き、十分な説明と、最適な治療を安全に行うことで、患者さんに諦めずに頑張ろうという意識をもってもらっています。患者さんに無理強いわせる治療を行ってしまった場合、もし治療が成功してお子さんを授かったとしても、その時の辛い経験が尾を引いてお子さんに悪い影響を及ぼしてしまうかもしれません。私は不妊治療を通して患者さんだけでなく、その先にある子供達の人生もより良いものにしたいと思っています。また、治療の成功はもちろんのことですが、万が一うまくいかなくとも、悔いを残すことなくその経験を患者さんの人生にプラスにしようことも私の願いです。

■7つの診療理念

1. 患者さんの気持ちに寄り添った診療を行います。
2. 患者さんの話をよく聞きます。
3. 納得していただけるまで十分に説明します。
4. それぞれの患者さんに最適な治療を安全に行います。
5. 院内勉強会、研修、学会参加を通じて、知識の吸収と技術の向上に努め、最高水準の医療を提供します。
6. 定期的な接遇研修を行い、接遇マナーの改善、向上を目指します。
7. 生殖医療および社会全般に貢献できるスタッフを育成します。

不妊治療に興味をもったきっかけ

私は学生時代には不妊治療ではなく(人の精神に携わる)精神科に興味を持っていました。しかしお産の実習を行った際に、人が産まれてくる瞬間を目の当たりにし、強く感銘を受けました。特に体外受精は、精子と卵子から生命が生まれるという神秘性が目に見えてわかることから強く興味を持つに至り、卒業後アメリカで体外受精や、受精卵の遺伝子異常の有無を調べる「着床前診断」という技術を学びました。その後ロンドンの大学院に入り、精子や卵子、受精卵の遺伝学に関する基礎研究をより深く行いました。さらにオーストラリアで研究と臨床を行った後日本に戻り、体外受精を中心とした不妊治療を行う東京HARTクリニックに勤め始めました。大学や総合病院ではなく海外で学び、クリニックで治療を行うというのは、他の科目から考えると珍しいかもしれませんが、体外受精を主として行う不妊治療では一般的です。



受付

受けました。特に体外受精は、精子と卵子から生命が生まれるという神秘性が目に見えてわかることから強く興味を持つに至り、卒業後アメリカで体外受精や、受精卵の遺伝子異常の有無を調べる「着床前診断」という技術を学びました。その後ロンドンの大学院に入り、精子や卵子、受精卵の遺伝学に関する基礎研究をより深く行いました。さらにオーストラリアで研究と臨床を行った後日本に戻り、体外受精を中心とした不妊治療を行う東京HARTクリニックに勤め始めました。大学や総合病院ではなく海外で学び、クリニックで治療を行うというのは、他の科目から考えると珍しいかもしれませんが、体外受精を主として行う不妊治療では一般的です。

より良い治療を行うための組織作りやスタッフ教育

当クリニックでは組織作りやスタッフ教育にも力をいれています。受付・看護部、培養部・医師(診療部)と担当が分かれています。不妊治療はチーム医療が不可欠で、どの部分が欠けても治療を完遂することはできません。診療理念の7つ目に「生殖医療および社会全般に貢献できるスタッフを育成します」を掲げています。当院で患者さんのために努力する経験を通して、社会人としての常識を身につけてもらうことで、将来別の職場に移った場合にも、より多くの患者さんの人生にプラスの影響を与えられるスタッフを育てていきたいと考えています。

また、毎日午後の診療開始前の15分間に全部署のスタッフが集まり、翌日の患者さんの処置内容について確認します。1日1回この時間に皆が顔を合わせることでコミュニケーションをとることができ、問題の共有も速やかになります。これはリスクマネジメントを考える上で重要なことです。受付・看護師・培養室の代表者が集まり、患者さんについて感じ取

たこと、午後からの予定、日頃の業務内容等についてミーティングの場を設け、風通しの良い空間を作っています。

さらに、各担当の業務手順を標準化し、システム化しています。全てを手順化することで、クリニックの運営において特定のスタッフに依存しすぎることなく、常に一定基準の医療を提供することができます。何かミスが起こった際にも、スタッフ個人の問題なのか、システムの問題なのかを明確にでき、必要に応じてすぐにシステムを改善することができます。

各担当には一人ひとり目標を立ててどれだけ達成できたかという評価を行っています。その目標設定についても客観的に評価が行えるようにできるだけ数値化した目標を立ててもらっています。こうすることで評価者は主観を挟むことなく適切な評価が行えますし、被評価者も達成度が目に見えてわかり、うまくいかない場合は対応策を考え、一方うまくいった場合には次のモチベーションに繋げることができます。



診察室

今後の展望

もうすぐ開業2年目になりますが、開業3年目時点では、経営が安定し、スタッフが成長し、患者さんからのより高い信頼を得られるクリニックになることが目標です。また、開業5年目では、治療等において特色を出し、当クリニックでしか行えないようなことをやっていきたいと考えています。また医師を増やして医療内容を充実させたいです。そして開業10年目には、各部署のスタッフが独り立ちし、クリニック全体が組織として一つの完成形となるようにしたい。私がいなくてもよい、というのが理想です。

不妊治療は、女性のライフスタイルの変化に大きな影響を



スタッフ一同

受けます。そのため、ライフスタイルの変化に合わせて我々も治療スタイルを変化させていき、一人でも多くの患者さんによりよい人生を送ってもらえるように貢献したいと考えています。

もう子供を持つことができないかもしれないという不安を抱く患者さんだけでなく、その配偶者、更には生まれてくるお子さんの幸せまで実現したいという後藤先生の不妊治療への熱い想いに感銘を受けました。(山田 雅博)

——— 大変素晴らしいお話を聞かせて頂きありがとうございました。 ———

横浜HARTクリニック

〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3-32-13
第2安田ビル7階

TEL:045-620-5731

ホームページ: <http://www.yokohama-hart.jp/>

横浜HARTクリニックはシャープファイナンスとお取引のあるお客様です。